



電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG)
ニューズレター (2020 年度 No.1)
<http://www.hcg-ieice.org/archives/newsletters/>



～ 目次 ～

- ◆ 2020 年度運営委員長からのご挨拶
- ◆ FIT2020 (第 19 回情報科学技術フォーラム) 開催のご案内
- ◆ HCG シンポジウム 2020 への投稿のご案内
- ◆ 研究会活動紹介 (WIT 研究会)
- ◆ 研究会活動紹介 (AC 研究会)

2020 年度運営委員長からのご挨拶

委員長
金子寛彦 (東工大)

2020 年という年は、コロナウイルスの広がりによって、ヒトの歴史において特別な年になってしまいました。現在 (2020 年 6 月時点) でもまだ感染者が日々報告されていますが、人々の行動範囲は大きく制限され、行動様式も大きく変化しました。その中で大きな役割を果たしたものの一つが、コミュニケーション技術です。職場での会議や大学や高校の授業はもちろん、仲間内の飲み会や接客を伴う夜のお店でも、複数の人が同時に画像と音声を共有できる遠隔コミュニケーションシステムが利用されています。これまでも、こうしたシステムはある程度使われていたわけですが、今回の出来事により、これ以上ありえない規模での社会実験、というか強制的な社会実装が突如始まったため、これまでとは比較にならない数の人々が遠隔システムを使うようになり、その結果、現在のシステムの短所や長所が明らかになりました。セキュリティや送受信する情報の質の問題が再認識されましたし、参加人数やコミュニケーションの目的によって、適切なインターフェースを吟味する必要もありそうです。また一方で、遠隔システムが予想以上に便利であることも認識されました。会議や学会などで使えることはある程度予想できましたが、飲み会でも意外と盛り上がることは個人的には予想外でした。将来、コロナや他の感染症の脅威がなくなったとしても、遠隔システムを継続して利用する状況が必ずあると思われる。

ヒトは昔からコミュニケーション技術の発展に大きな力を注いでいます。狼煙 (のろし) や太鼓などの原始的な技術から始まり、手紙、電話、無線、携帯電話、ポケベル、メール、スマホ、ライン (ここから固有名詞ですが)、スカイプ、フェイスブック、Zoom などどんどん新しいものができています。特に

最近では、変化のスピードがとて速く適応するのが大変です。先日、職場をすでに退職された70歳を過ぎた方から、大学院に入りたいという連絡を「手紙」でいただきましたし、学生からは、メールは面倒なので「ライン」で日々の連絡してもいいかとの問い合わせもあります。いずれにしても、ヒトにとって、コミュニケーションは重要で、なくてはならないものです。逆に言えば、今回のコロナによって、行動が大きく制限されるような状況においても、コミュニケーションを十分に取れるような環境の構築ができれば、ヒトの活動のかなりの部分は維持でき、暮らしが楽しく豊かになると思われれます。前置きが長くなりましたが、そのようなヒトのコミュニケーションに関連する研究を行う者が集まっているのがHCG（ヒューマンコミュニケーショングループ）です。

HCGは、4つの第一種研究会（ヒューマンコミュニケーション基礎、ヒューマン情報処理、メディアエクスペリエンス・バーチャル環境基礎、福祉情報工学）、5つの第二種研究会（発達障害支援、ヒューマンプロブ、情報の認知と行動、魅力工学、コミック工学）、2つの第三種研究会（ヴァーバル・ノンヴァーバル・コミュニケーション、リアルタイムコミュニケーション言語）と、多くの研究会から構成されており、ヒトに関連する研究を、工学のみならず、心理学、社会学、言語学、医学、教育学、芸術など様々な観点から、小回りの利く方法で展開しています。通常はそれぞれ研究会を開催していますが、年に1度、HCGメンバーが一堂に会するHCGシンポジウムを開催して（今年は遠隔です！）、分野の異なる研究者の交流を行なっています。このような活動を通して、今後、ますます重要となり、多様化すると思われるヒューマンコミュニケーション技術の発展を目指しています。委員長といたしましても、委員会のメンバーと協力し、HCGの活動を盛り上げていきたいと思しますので、皆様もご協力のほどよろしくお願いいたします。

FIT2020（第19回情報科学技術フォーラム）開催のご案内

企画幹事
瀬古俊一（NTT）

電子情報通信学会（ヒューマンコミュニケーショングループ、情報・システムソサイエティ（ISS））、情報処理学会（IPSJ）、およびHCGが共催する、FIT2020（第19回情報科学技術フォーラム）の開催をお知らせいたします。

- ・開場：オンライン開催
- ・会期：2020年9月1日（火）～3日（木）

本フォーラムは、IPSJ全国大会とISSソサイエティ大会との流れを汲むものですが、従来の大会の形式にとらわれずに新しい発表形式を導入し、タイムリーな情報発信、活気ある議論・討論、多彩な企画、他分野研究者との交流などを実現することで、2002年から毎年継続して開催しております。今年度は初のオンライン開催となりますが、様々な魅力的なイベントを開催予定です。昨年度に新設されて好評であった「トップコンファレンスセッション」（各分野に

におけるトップレベルの国際会議および学術雑誌で最近数年以内に採録された論文の著者に、その内容を紹介して頂く特別なセッション)は8セッション42件に増加して実施する予定になっております。パネルディスカッションも、デジタル学習環境、アジャイル開発、デジタルトランスフォーメーション、デジタルゲリマンダ、次世代映像符号化国際標準VVCなど、バラエティに富んだ興味深いテーマについて行われる予定です。情報技術分野における顕著な業績に対して贈られるFIT2020 船井業績賞を受賞される西田 友是氏(広島修道大学教授(東京大学名誉教授) / プロメテック CG リサーチ所長)の受賞記念講演も9月2日(水)に予定されています。また、以下のような情報科学技術に関する様々なテーマの学会・研究会企画によるイベントが開催されますので、是非ご参加下さい。

【9月1日(火)】

- ・ AI Tech Talk
- ・ デジタル・ゲリマンダーの最新情勢
- ・ インダストリアルセッション
- ・ トップコンファレンスセッション
- ・ 次世代映像符号化国際標準VVCの技術動向および今後の映像符号化について
- ・ 一人一台端末による学びを支えるデジタル学習環境

【9月2日(水)】

- ・ NoMaps が切り拓く地図なき世界
- ・ 「未来を拓く」博士教育リーディングから情報科学の達人プログラムへの接続
- ・ トップコンファレンスセッション
- ・ [無料公開]FIT2020 船井業績賞受賞記念講演「半世紀を経ていつでもどこでもCG時代に」
- ・ キャリアセッション
- ・ 深層学習の源流を探り、未来を拓く
- ・ 研究機関でアジャイル開発しませんか
- ・ AI・ビッグデータ解析, IoT 領域人材のプロフェッショナル資格化を考える

【9月3日(木)】

- ・ モビリティのためのCV/PR技術
- ・ DXを推進する俊敏なシステム開発・運用—アジャイルにつなぐビジネスとICT~デジタルプラクティスライブ~
- ・ 社会選択への計算論的アプローチ
- ・ トップコンファレンス

最新情報につきましては以下を御覧ください。

<https://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2020/>

HCG シンポジウム 2020 への投稿のご案内

企画幹事
蔵田武志（産総研）

【HCG シンポジウム 2020 開催のご案内】

HCG シンポジウムは今年度で 18 回目を迎えます。シンポジウムの特徴として、工学分野に加え、ヒューマンコミュニケーションに関係が深い心理学、デザイン学、生理学の分野に精通する関係者も集め、活発な議論の場を提供しております。今回は、コロナ禍の収束が不確定な状況のため、初のオンラインでの開催となります。HCG(ヒューマンコミュニケーショングループ)らしいオンライン開催とすべく準備を進めてまいりますので、ご投稿、及びご参加を心よりお待ちしております。コロナ禍の影響で研究の進捗が例年より滞っている場合も、今後の方向性のディスカッションの場としてこのシンポジウムをご活用いただけると幸いです。

【開催案内】

会場：オンライン

会期：2020 年 12 月 15 日（火）～ 2020 年 12 月 17 日（木）

発表申込開始： 8 月上旬（予定）

発表申込締切： 9 月中旬（予定）

発表原稿締切： 10 月下旬（予定）

予稿集公知： 12 月 8 日（予定）

【副題】

「共生社会をささえるヒューマンコミュニケーション」

新しい時代を切り拓く時代は人間に多様性が求められます。職業、能力、個性、人種、価値観など、互いに異なる背景であっても認め合い共生することで社会や文化の発展に寄与することができます。また、Digital Twin の時代、新たな生活様式が求められる時代、ますますヒューマンコミュニケーションが重要です。コミュニケーション技術をどのように発展させ、使っていくかを一緒に考えましょう。

【企画】

- ・ 招待講演：高木 啓伸（日本アイ・ビー・エム株式会社東京基礎研究所）
- ・ チュートリアル講演：企画中
- ・ 特集テーマセッション：企画募集中（開催決定：ソーシャル・インタラクティブ、食メディア総括、視覚障害者支援）
- ・ 特別セッション：企画募集中

【懇親会会場】

会場：オンライン

日時：12 月 16 日（水）夜（未定）

研究会活動紹介（WIT 研究会）

WIT 運営委員長
若月大輔（筑波技術大）

WIT の「W」, 「Well-being」とはなんのでしょうか. いくつかの意味をもつ言葉ですが, 身体的, 精神的, 社会的に良好な状態にあることを示す言葉として使用されることが多いようです. Well-being を冠した福祉情報工学研究会 (WIT: Well-being Information Technology) は, 情報・通信関連の諸課題に取り組む情報工学や科学をはじめ, 認知科学, 言語処理, ヒューマンインタフェースなどの人間科学を含めた様々な領域のみなさんと, すべての人々が Well-being であるための, 発表や討論をする研究会として活動をしています.

Well-being の実現には, 各個人の身体的な面だけでなく, 精神的かつ社会的に良好な状態を維持すること, つまり心身ともに健やかにすることが必要です. 社会的に弱者になりやすい障害がある方や高齢者が抱える課題を技術的に解決するシステムや装置, 方法論について議論していくことは, WIT の重要な役割の 1 つであることはもちろんです. また, 障害がある方や高齢者を支える支援者や介護者などの周りの人々を支援する技術についての議論も非常に重要です. 近年では, 健康維持や教育, 労働, エンタテインメントを対象とした研究も多く, 障害のあるなしに関係なく人々の Well-being の実現に寄与する発表や討論がなされています.

このような議論をするためには, 前述のとおり情報や通信の工学分野だけでなく, 人間科学や社会科学, 医学, 心理学などの知見が求められます. より幅広い領域のみなさんと討論, 交流する機会を増やすために, 関連学会や研究会との連携を積極的に進めています. 近年では, 感覚代行研究会, ヒューマンインタフェース学会アクセシブル・インタフェース専門研究会, IEEE EMBS Japan Chapter, 日本音響学会聴覚研究会, 情報処理学会アクセシビリティ研究会と共同で研究会を開催しています. 研究会は多くの地域の人たちが参加しやすさを考え, 日本各地で年間 5~6 回のペースで開催し, 2020 年度からは Web 会議システムを利用したオンライン研究会も試みています.

研究会における議論をより有意義なものにするためには, 研究者だけでなく支援対象者や支援者との情報交換や意見交換が非常に重要です. そのため, 「誰でも参加できる学会を目指して, 大会・研究会における, 障害のある人への情報保障方法を確立する」ことを目標に掲げ, 「論文作成・発表アクセシビリティガイドライン」を Web で公開し, 視覚障害者向けの点字・テキスト資料の配布や, 聴覚障害者向けの手話通訳・文字通訳の提供などの情報保障に取り組んでいます.

発表や議論, 運営などで WIT に関わってくださった方々が醸成してきた自由な議論とアクセシブルな環境づくりを継承し, ひとつでも多くの Well-being の実現をお手伝いできる場として, 幹事団ならびに専門委員一同が力をあわせ

て、より活発な研究会運営に努めていきます。福祉、健康、コミュニケーション、社会参加など、Well-being に寄与する研究分野に関心があるみなさまのご参加、ご発表を心よりお待ちしております。

研究会活動紹介 (AC 研究会)

AC 運営委員長
土居裕和 (国士舘大)

魅力学研究会 (Attractiveness Computing 研究会, AC 研究会) は、今年 8 月で 4 年目を迎える研究会です。テキスト、音声、画像・映像といったメディアデータの処理・認識は半世紀以上に渡って研究が行われ、ビッグデータの拡充や機械学習・深層学習の成熟、計算機能力の向上とあいまって様々な実ビジネスに応用されるに至っています。一方、そのように客観的に誰しもが理解できる情報だけでなく、感情・情動、感性といった人間の内部状態に紐付いた「メタな情報・状態」の処理・認識が求められつつあります。

その中で「刺さる」「映える」といったコト・モノをいかに魅力的にするかということが重要になりつつあります。魅力の処理・理解・認識のためには単に従来のコンピュータサイエンス分野だけにとどまらず、いわゆる人文科学分野を含む多様な分野の知を結集する必要があります。しかし、魅力を切り口とした研究を行う諸分野の人材・研究成果が散在し集約されていないという現状が、魅力研究の発展を妨げる一因になっています。そこで、分野縦横断的に魅力研究に関する学術・産業界の研究者が集まる場を提供し、学問として深掘りしてだけでなく異分野研究者同士のコラボレーションを創出しようという趣旨で設立されたのがこの AC 研究会です。実際、多くの共同研究、産学連携が生まれています。

これまで、魅力に関する国際会議併設ワークショップと国内シンポジウムを毎年開催しており、いずれも多くのおオーディエンスを集めました。今年度は、AC が協賛する MVE9 月研究会にて、関連発表を複数件行う予定です。詳しくは <http://www.attractiveness-computing.org/> を御覧いただき、ご都合付く場合は奮ってご参加ください。

ヒューマンコミュニケーショングループ研究会・関連行事について、
詳しくは HCG ホームページ <http://www.hcg-ieice.org/> をご覧ください。

□■□
電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ
Copyright (c) 2020 IEICE, All Rights Reserved.
□■□

☆e-mail による情報配信を必要としない方は、その旨 henkou@ieice.org まで
会員番号、氏名をご連絡ください。処理に 1 ヶ月程度かかりますので、入れ
違いに、再度情報配信された場合は、ご容赦ください。

(ご連絡いただいた場合は本会、登録ソサイエティ、グループ、支部、からの
全ての情報配信が止まりますので、情報配信を再度希望される時も、その旨、
henkou@ieice.org までご連絡下さい。)

ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice

(社) 電子情報通信学会 サービス事業部

TEL:03-3433-6691 FAX:03-3433-6659